

『そこで信仰によって生きる』 ハバクク書2:1-4

2:1 わたしはわたしの見張所に立ち、物見やぐらに身を置き、望み見て、彼がわたしになんと語られるかを見、またわたしの訴えについて／わたし自らなんと答えたらよかろうかを見よう。

2:2 主はわたしに答えて言われた、「この幻を書き、これを板の上に明らかにし、走りながらも、これを読みうるようにせよ。

2:3 この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそければ待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。

2:4 見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。

●序論

先日読んだ、あるクリスチャンビジネスマンの方の言葉に心惹かれました。

「成功も失敗も主の主権の中にあることだ」と受け入れるなら、あらゆる誘惑に打ち勝てます。たとえ失敗しても立ち上がれるのです。逆に神さまが関わらない成功は目的が間違っているのもなしくなるのです」と。

「成功や失敗」を、「勝利と敗北」などに置き換えて表現する…。

個人において、失敗や挫折さえも神さまのかかわりとご計画の中にあるならば、その先に意味と理由があることを信じ、それが生きがいを生み祝福につながります。さらにそれをもっと大きくや国、世界レベルの事柄で置き換えるとどうでしょう。

それは、規模が違う、話が違う…と言われそうですが、実に聖書の各所で、そしてこのハバクク書では、国や世界を覆う神さまの御手とご計画が語られているのです。

●本論

I. そこで神に祈り求める（1章）

ハバククは、末期の南王国ユダに生き、そのユダを愛し、またユダのゆえに悩んだ預言者であったことがわかります。（現代訳にて）

:2 主よ。私が助けを求めて叫んでいるのに、いつまであなたは聞いてくださらないのですか。私が、「暴虐です」と叫んでいるのに、どうしてあなたは救ってくださらないのですか。

:3 どうしてあなたは私に不正を見させ、悪を許しておられるのですか。破壊と暴虐が私の前にあり、論争や闘争が起っています。

:4 それで、律法は無力になり、正しいことが行われず、悪人は正しい人を取り囲んで、正しさが曲げられています。

この訴えに、ここで神さまは答えてくださいます。（口語訳）

:5 諸国民のうちを望み見て、驚け、そして怪しめ。わたしはあなたがたの日に一つの事をする。人がこの事を知らせても、あなたがたはとうてい信じまい。

:6 見よ、わたしはカルデアびと（バビロニア）を興す。これはたけく、激しい国民であって、地を縦横に行きめぐり、自分たちのものでないすみかを奪う。…

:11 こうして、彼らは風のようになぎ倒して行き過ぎる。彼らは罪深い者で、おのれのか（武力）を神となす。

ここでハバククは南王国ユダが、ある一つの民族によって裁かれることを知りました。しかし、その裁きのために用いられる民族がバビロニア、それは圧倒的に邪悪な国でした。腐っても選民たちの国を、邪悪な国に依って罰する。という。

ハバククには、それは不思議、いや受け入れがたいものに思えました。だから、ここでもハバククは神さまに正直に尋ねたのです。

:13 あなたは目が清く、悪を見られない者、また不義を見られない者であるのに、何ゆえ不真実な者に目をとめていらられるのですか。悪しき者が自分よりも正しい者を、のみ食らうのに、何ゆえ黙っていらられるのですか。

ここで、ハバククから熱心な祈り、そして率直な疑問をも祈りにする素直さを学びます。さらに、何よりも周囲の暴虐と悩みに染まらず、そこから神を求めることができた。いや求めることをやめなかったということです。その姿に、信仰者、祈り人の姿を見るのです。

今の時代を生きる中でも、彼のように、聖書を通して、誠実に主の御思いを尋ね、その現場から神を求める者、率直に主を求める祈り人でありたいと願います。

Ⅱ. そこで神を待ち望む（2章）

イザヤ書に「30:18 すべて主を待ち望む者はさいわいである。」 「40:31 しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」とあります。

「主を待ち望むこと」には、主からいただく祝福がある…ということです。

今日2章にはこうありました。(新改訳で)

2:1 私は、見張り場に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、わたしの訴えに何と答えるかを見よう。

「見張り人」… ここに見るのは、主にある霊的な意味での見張り人です。そこで見張り人に期待されることは、” 「主の答え」を待ち望む姿” です。

わたしたちも本当に純粋に「神の言葉」「神のなさること」待ち望んでいるかな…、そう自分の心を探られます。それをコントロールしようとしてはいないか…と。

ここでハバククは、そのすべてをゆだねて自分の問いかけに答えてくださる神さまを待ち望みました。それがこのところであらわされているのです。

彼が真実に求めたのは、「主が私に何を語り、わたしの訴えに何と答えるか」でした。

他の代用品ではだめだ。神からのもの、神さまの言葉でなければならない。

それを聞くために彼はそこで、主の言葉を待ち望んだのです。

そういうハバククに対して神さまはこう語られます。

:3 この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれれば待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。

わたしたちは、主なる神さまがなさることの真実に信頼しています。そして待ち望んでいます。それはいつ起こるかはわかりません。けれどもそれは必ず成就すると信じるのです。

「もしおそれれば待っておれ」との言葉は、何でもすぐに結果を出すことに慣れた、

インスタント、時短時代を生きるわたしたちには、チャレンジとなります。しかし、この時間を過ごすことを大切に、誠実に「待ち望む」ことこそが信仰者としての人格・品格を築き上げるものと聖書は証しするのです。

ヘブル人への手紙ではこのハバクク書から引用がなされ、さらに印象深く記されています。ヘブル10:35-37

10:35 だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。

10:36 神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。

10:37 「もうしばらくすれば、／きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。

ここで「必要なのは忍耐」だと記されています。

ローマ5:4 「…忍耐な寝られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す…」と示します。

はっきり申し上げると、忍耐は、それだけではただの苦痛です。

でも、主なる神さまの御手にある、そのかわりのもとにある忍耐は、わたしたちを成長させてくださり、また祝福となるのです。

そして今日のハバクク書2:4には

2:4 見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。

そこから引用したのであろうヘブル人への手紙ではこうあります。ヘブル10:38-39

10:38 わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、／わたしのたましいはこれを喜ばない」。

10:39 しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。

これから起こると言われたバビロニアによるユダ王国の侵略・破壊を知らされながらも、あくまでも神が良いお方であり、その先に希望があることを聞く。その神の言葉はハバククを引き上げます。

わたしたちもまた、祈ると同時に、神の言葉に聞く経験を、もっともっと大切にしたい。そして信じて生きる者でありたいと願います。

Ⅲ. そこで神を賛美する

2:4 見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。

ハバククが目にしてきたユダ王国の墮落よりも、バビロニアの圧倒的な力と暴虐よりも、彼が最も真実なこととしていたのは、「神は生きておられる」ということ、神は真実であるということです。

わたしたちは告白します。

「神のなされることは皆その時に適って美しい」と。

そこにはさらに「神はまた人に永遠を想う思いを授けられた。それでもなお、人

は神のなされるわざを初めから終わりまで見極めることはできない」とあります。
(伝道者の書3:11)

だから、わたしたちは「信仰によって生きる」のです。

現代にあって、災害、疫病、経済不安、さらに目に見えて暴力や略奪や争いや力を神とするような考え方で不安を取り除こうとする方向に来ています。もっと大きな、確かな力や技術を得ようと。

そうして、わたしたちにできることが増えれば増えるほど、神の存在が薄らいでいくというような時代を生きているのかもしれない。

それでもなお、このハバククの姿からわたしたちは、その信仰者が持つ「違い」こそ、神さまの祝福が伴うことを。それこそが違いなのだと思わせたいのです。

そしてもう一つ申し上げます。神の愛はイエス・キリストによって、その十字架と復活によって、わたしたちにはっきり示されています。そしてキリストが再び来られる日を待ち望むようにとも示されています。それが信仰によって生きることだからです。

テトス2:11-13

:11 すべての人を救う神の恵みが現れた。

:12 そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、

:13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。

この希望がわたしたちに永遠の命と希望を示すのです。

だから、最後にヘブル10:36-39をお読みします。

10:36 あなたがたが神のみこころを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

10:37 「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。

10:38 わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのところは彼を喜ばない。」

10:39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。